

証券コード1716

2023年9月11日

(電子提供措置の開始日2023年9月5日)

株 主 各 位

神奈川県茅ヶ崎市萩園833番地
第一カッター興業株式会社
代表取締役社長 高橋 正 光

第56回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

さて、当社第56回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申しあげます。

本株主総会の招集に際しては電子提供措置をとっており、インターネット上の下記ウェブサイトにて電子提供措置事項を掲載しております。

当社ウェブサイト

(<https://www.daiichi-cutter.co.jp/ir/library/convocation/>)



また、上記のほか、インターネット上の下記ウェブサイトにも掲載しております。

東証ウェブサイト

(<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>)



上記の東京証券取引所のウェブサイトへアクセスして、当社名(第一カッター興業)又は証券コード(1716)を入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択のうえ、ご覧ください。

なお、議決権を事前に行使していただく場合は、インターネット又は書面により議決権を行使することができますので、お手数ながら電子提供措置事項に掲載の株主総会参考書類をご検討のうえ、2023年9月26日（火曜日）午後5時までに議決権を行使していただきますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2023年9月27日（水曜日）午前10時(受付開始午前9時30分)
2. 場 所 神奈川県茅ヶ崎市萩園833番地
第一カッター興業株式会社本社ビル3階 大会議室
(末尾の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください。)

3. 会議の目的事項

- 報告事項
1. 第56期（2022年7月1日から2023年6月30日まで）事業報告及び連結計算書類ならびに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第56期（2022年7月1日から2023年6月30日まで）計算書類報告の件

決議事項

- 議 案 剰余金の処分の件

4. その他株主総会招集に関する決定事項

- (1) 議決権行使書の郵送とインターネット等による方法の双方で議決権を行使された場合は、インターネット等による議決権の行使を有効とさせていただきます。
また、インターネット等で議決権行使を複数回された場合は、最後の議決権行使を有効とさせていただきます。
- (2) 代理人による議決権の行使につきましては、議決権を有する他の株主様1名を代理人として、その議決権を行使することとさせていただきます。
- (3) 議決権行使書面において、議案に賛否の表示がない場合は、賛成の意思表示をされたものとして取り扱わせていただきます。

以 上

-
- ◎ 当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
- ◎ 本株主総会においては、書面交付請求の有無にかかわらず、一律に電子提供措置事項を記載した書面を送付しております。なお、送付書面については、法令及び当社定款第14条の規定に基づき、下記の事項を記載しておりません。したがって、当該書面は監査報告を作成するに際し、監査役及び会計監査人が監査をした一部であります。
- ・業務の適正を確保するための体制及び運用状況の概要
 - ・連結注記表並びに個別注記表
- ◎ 電子提供措置事項に修正が生じた場合は、掲載している各ウェブサイトにてその旨、修正前の事項及び修正後の事項を掲載させていただきます。

議決権行使のご案内

議決権行使には以下の3つの方法がございます。

1. 郵送で議決権をご行使される場合



同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、ご返送ください。

日 時 2023年9月26日（火曜日）午後5時到着分まで

2. インターネットで議決権をご行使される場合



議決権行使サイトで議案に対する賛否をご入力いただき、ご送信ください。

日 時 2023年9月26日（火曜日）午後5時まで

※詳細につきましてはP. 4～P. 5【インターネットによる議決権行使のご案内】をご参照ください。

機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームについて

機関投資家の皆様につきましては、(株)ICJが運営する機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームをご利用いただけます。

3. 株主総会にご出席される場合



同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。

日 時 2023年9月27日（水曜日）午前10時

第一カッター興業株式会社

会 場 本社ビル3階 大会議室

裏表紙の「株主総会会場ご案内図」をご参照ください。

【代理人によるご出席について】

議決権を有する当社の他の株主1名を代理人にご指定のうえ、代理権を証明する書面を株主総会当日、会場受付にご提出ください。

インターネットによる議決権行使のご案内

インターネットにより議決権を行使される場合は、下記事項をご確認のうえ、行使していただきますようお願い申し上げます。

QRコードを読み取る方法

「ログイン用QRコード」を読み取りいただくことで、
「ログインID」および「仮パスワード」が入力不要でログインいただけます。

- 1 QRコードを読み取る
お手持ちのスマートフォンにて、
同封の議決権行使書副票（右側）に記載の
「ログイン用QRコード」を読み取る。



- 2 議決権行使方法を選ぶ
議案賛否方法の
選択画面が表示されるので、
議決権行使方法を選ぶ。



- 3 各議案の賛否を選択
画面の案内にしたがって
各議案の賛否を選択



画面の案内にしたがって行使完了です。

ログインID・仮パスワードを入力する方法

1

議決権行使サイトにアクセスする



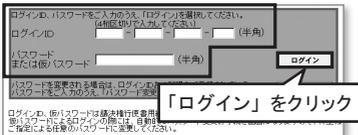
議決権行使サイト

<https://evote.tr.mufg.jp/>



2

お手元の議決権行使書用紙の副票（右側）に記載された「ログインID」および「仮パスワード」を入力



3

「新しいパスワード」と「新しいパスワード（確認用）」の両方に入力



以降は画面の案内にしたがって
賛否をご入力ください。

- ※ 郵送とインターネットにより重複して議決権を行使された場合は、インターネットによる議決権行使の内容を有効とさせていただきます。
- ※ インターネットにより複数回にわたり議決権を行使された場合は、最後に行使された内容を有効とさせていただきます。
- ※ インターネットのご利用環境、ご加入のサービスやご使用の機種によっては、議決権行使サイトが利用できない場合があります。
- ※ 議決権行使サイトへのアクセスに際して発生するインターネット接続料、通信費等は株主様のご負担となります。

システム等に関するお問い合わせ

ヘルプデスク（三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部）

☎0120-173-027

（通話料無料／受付時間 9:00～21:00）

事業報告

(2022年7月1日から2023年6月30日まで)

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 当連結会計年度の事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行されたことに伴い、経済活動の正常化が一層進み、景気は持ち直しつつあります。しかし、ウクライナ情勢に端を発した資源価格及び穀物価格の高騰や各国の金融引き締め政策等が国内経済に及ぼす影響に対しては、引き続き注視が必要になるものと思われれます。国内建設市場におきましては、国土強靱化計画等を背景とする公共投資は底堅く推移し、民間設備投資にも持ち直しの動きがみられる一方で、建設資材の価格高騰等による企業収益の悪化が懸念されており、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況下で、当社グループは、全事業セグメントにおいて積極的な事業活動を展開してまいりました。その結果、特に当社グループの主要事業である切断・穿孔工事事業において完成工事高が増加したため、当連結会計年度の当社グループ全体の売上高は22,164百万円（前年同期比5.8%増）となりました。また、完成工事高の増加に伴い、営業利益は2,631百万円（前年同期比5.2%増）、経常利益は2,865百万円（前年同期比5.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,946百万円（前年同期比23.2%増）となりました。

今後とも変わらぬ御支援の程、宜しくお願い申し上げます。

セグメント別売上高実績

(単位：千円)

区 分	前連結会計年度 (2021年7月1日から 2022年6月30日まで)		当連結会計年度 (2022年7月1日から 2023年6月30日まで)	
	金 額	前年同期比(%)	金 額	前年同期比(%)
切 断 ・ 穿 孔 工 事 事 業	18,295,300	108.3	19,552,494	106.9
ビ ル メ ン テ ナ ン ス 事 業	469,920	109.2	475,990	101.3
リ ュ ー ス ・ リ サ イ ク ル 事 業	2,183,923	108.7	2,135,909	97.8
合 計	20,949,144	108.3	22,164,394	105.8

(注) セグメント間取引は相殺消去しておりません。

(2) 主な事業の内容 (2023年6月30日現在)

当社グループの事業は、各種舗装及びコンクリート構造物の切断・穿孔工事業、ビルメンテナンス事業及びリユース・リサイクル事業から成り立っております。主要な事業の内容は、次のとおりであります。

①切断・穿孔工事業

イ. フラットソーイング工事

ダイヤモンドブレードを使用した最も一般的な工法で、公共事業に関する電気、電話、ガス、上下水道、情報ボックスなどの配管埋設工事、また新設コンクリートの目地切、床版撤去など幅広い分野で使用されております。

ロ. コアドリリング工事

ダイヤモンドビットを使用し、コンクリート建築物の空調や衛生設備などの配管、各種配線工事の孔あけ、コンクリート構造物の強度試験用サンプル採取など多用途に用いられております。

ハ. ワイヤソーイング工事

ダイヤモンドチップを焼結させたワイヤーを使用し、コンクリート構造物に巻き付け切断する工法であります。遠隔操作が可能なため水中、高所、地下の構造物などあらゆる場所で厚大断面の切断が可能であります。

ニ. ウォールソーイング工事

ダイヤモンドブレードを使用し、壁面をはじめあらゆるコンクリートの切断工事を行います。機械は軽量で持ち運びが可能のため、狭い場所や高層ビル等での工事に多用されております。

ホ. 空港灯火工事

空港の夜間飛行用灯火の設置工事であります。移動時間の短縮、効率化を図り、緊急時にすばやい退避が必要となるため当社グループが独自開発した特装車を使用します。

ヘ. グルーピング工事

ハイドロプレーニング現象による事故防止のため空港の滑走路や高速道路、滑りやすい路面などに利用されます。路面に細かい溝を切る工事で、水はけを良くしタイヤと路面とのすべり抵抗を改善し、曲がりくねった坂道では横滑り防止に効果が認められております。

ト. ウォータージェット工事

水の力で「切る、はつる、洗う、剥す、削る」という多彩な機能をこなすジェット水流を利用した切削システムであります。繊細な作業にも適した精度と、高水圧が生み出すパワーは、ウォータージェットならではのメリットであり、粉塵の発生もなく、環境にたいへんやさしい工法であります。

②ビルメンテナンス事業

マンション等の配管洗浄を中心とした事業であります。

③リユース・リサイクル事業

中古パソコン等の販売を中心とした事業であります。

(3) 主要な営業所並びに使用人の状況 (2023年6月30日現在)

①主要な営業所

イ. 当社

本社	神奈川県茅ヶ崎市
プラント事業部	神奈川県茅ヶ崎市
ビルメンテナンス事業部	神奈川県茅ヶ崎市
東京支店	東京都江東区
茅ヶ崎営業所	神奈川県茅ヶ崎市
千葉営業所	千葉市稲毛区
水戸営業所	茨城県水戸市
栃木営業所	栃木県栃木市
群馬営業所	群馬県前橋市
さいたま営業所	さいたま市岩槻区
北陸営業所	新潟市西蒲区
仙台営業所	宮城県多賀城市
札幌営業所	北海道北広島市

ロ. 子会社

(株)ウォールカッティング工業	愛知県あま市 (本社)
(株)光明工事	愛媛県松山市 (本社)
(株)新伸興業	沖縄県豊見城市 (本社)
(株)ムーバブルトレードネットワークス	東京都千代田区 (本社)
(株)アシレ	神奈川県横浜市 (本社)
(株)ユニペック	兵庫県神戸市 (本社)

②従業員の状況

イ. 企業集団の従業員の状況

区 分		前連結会計年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男 性	601名	39名(増)	40才 4ヶ月	12年 3ヶ月
女 性	122名	44名(増)	48才 1ヶ月	15年 6ヶ月
合計または平均	723名	83名(増)	41才 8ヶ月	12年 10ヶ月

(注) 従業員数は役員40名、嘱託28名及び臨時従業員71名を含んでおりません。

ロ. 当社の従業員の状況

区 分		前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男 性	401名	22名(増)	38才 3ヶ月	12年 0ヶ月
女 性	45名	一名(一)	42才 3ヶ月	9年 6ヶ月
合計または平均	446名	22名(増)	38才 7ヶ月	11年 9ヶ月

(注) 従業員数は役員8名、嘱託21名及び臨時従業員37名を含んでおりません。

(4) 主な借入先 (2023年6月30日現在)

借 入 先	借 入 額
株式会社りそな銀行	189,998千円

(5) 資金調達、設備投資等の状況

①資金調達の状況

当連結会計年度は、社債または新株式の募集等による資金調達は行っておりません。

②設備投資の状況

当連結会計年度の設備投資の総額は951,225千円であり、その主なものは以下のとおりであります。

機械装置及び運搬具	507,100千円
子会社本社の移転・改修	214,820千円

(6) 財産及び損益の状況

区 分	第 53 期 (2020年6月期)	第 54 期 (2021年6月期)	第 55 期 (2022年6月期)	第 56 期 (2023年6月期) 当連結会計年度
売 上 高 (千円)	17,440,076	19,337,792	20,949,144	22,164,394
経 常 利 益 (千円)	2,482,784	2,936,089	2,704,274	2,865,135
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	1,523,817	1,743,496	1,580,021	1,946,864
純 資 産 額 (千円)	12,548,502	14,321,265	15,854,200	17,233,841
総 資 産 額 (千円)	15,533,540	17,991,723	19,408,371	21,565,860
1株当たり当期純利益 (円)	133.86	153.16	138.83	171.97
自 己 資 本 比 率 (%)	77.1	75.8	77.4	77.1

- (注) 1. 1株当たり当期純利益につきましては、期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。なお、発行済株式総数につきましては、自己株式を控除した株式数によっております。
2. 2021年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、第53期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益を算定しております。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)を第55期の期首から適用しており、第55期以降に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

(7) 重要な親会社及び子会社の状況

①重要な親会社の状況

当社は、親会社を有しておりません。

②重要な子会社の状況

会 社 名	資 本 金	当社の議決権比率	主要な事業内容
㈱ウォールカッティング工業	10,000千円	100.0%	切断・穿孔工事業
㈱光明工事	15,000千円	100.0%	切断・穿孔工事業
㈱新伸興業	10,000千円	51.0%	切断・穿孔工事業
㈱アシレ	15,000千円	100.0%	切断・穿孔工事業
㈱ムーバブルトレードネットワークス	99,800千円	50.2%	リユース・リサイクル事業
㈱ユニベック	12,000千円	100.0%	切断・穿孔工事業

(注) 特定完全子会社に該当する子会社はありません。

(8) 対処すべき課題

今後の経営環境につきましては、コロナ禍による社会活動の制約がほぼ解消されたことにより、内需は緩やかに回復するものと見込まれますが、一方で世界情勢が資源価格等の更なる上昇をもたらす可能性もあり、わが国全体の景気動向も影響を受けることが想定されます。

当社グループが主力事業を展開しております建設業界におきましても、今後は建設資材やエネルギー価格の高騰により企業収益の下押しが懸念され、受注環境は厳しくなることが見込まれます。

当社グループはこのような厳しい経営環境に対処すべく、グループ全体として、①人材採用・育成の強化・拡充、②営業展開の強化、③協力会社ネットワークの強化、④研究開発の強化を基本戦略とし、この基本戦略を念頭に、各事業ごとに以下の取り組みを行ってまいります。

まず、切断・穿孔工事業につきましては、公共、民間ともに老朽化対策が推進されるなか、市況の影響を受けにくい高速道路・鉄道などの輸送インフラ、及び長寿命化計画や修繕・改修が不可欠となる産業インフラをターゲットとした営業展開を図ることで、計画的な売上確保・案件獲得を進めてまいります。

次に、ビルメンテナンス事業につきましては、今後もエリアの拡大及び作業員の増員を行うことで施工体制の強化・新規顧客の獲得に努めてまいります。

最後に、リユース・リサイクル事業につきましては、引き続き新規顧客の開拓及び付加サービスの拡充に努めてまいります。

また、当社は、2021年8月6日付「第三者委員会設置に関するお知らせ」で公表いたしましたとおり、当社連結子会社である(株)光明工事で発覚した不正資金流用疑惑について、外部の専門家から構成される第三者委員会を設置して実態の解明に努め、2021年10月8日付で調査結果報告書を受領いたしました。

当社は引き続き当第三者委員会による調査結果報告書の提言を踏まえ、以下のとおり再発防止策を講じて、ガバナンス及びコンプライアンス体制の強化に努める方針であります。

- 1) コンプライアンスを真ん中に置く企業文化を創る
 - ① 当社グループにおけるコンプライアンス基本理念及び行動指針を策定・公開し、グループ全体で、リベート文化等、旧態依然とした建設業界の悪しき慣習と決別する決意の下、特化した技術と高いサービスの提供で選ばれる会社になるべく、社内外にその決意を表明する。
 - ② 上命下服的な風通しの良くない企業風土を改善し、全社員特に若い人達が自分らしさ、創意工夫を発揮できる企業風土を創るため、グループ全体で、1on1ミーティングやエンゲージメント評価など、心理的安全性を高めるあらゆる施策を講じる。

- 2) 役員・従業員のガバナンス・コンプライアンスに対する意識改革のための教育
 - ① グループ全体の役員・従業員に対して、外部講師による役職別・階層別の講義スタイルの研修のほか、役員から従業員への縦の教育、ケーススタディ、ディスカッションなど、多種多様な「自分事化する」取り組みを定期的実施する。
 - ② 定期以外にも、グループ会社の役員含め、管理監督者には、役付のタイミンで、各階層にあったコンプライアンス研修を義務付け実施する。
 - ③ 定期以外にも、グループ会社の全従業員には、メンターメンティー制度を通じ、斜めの関係からの面でも複合的に、コンプライアンス基本理念の浸透を図ってゆき、グループ全体の意識改革を推進する。
 - ④ 教育効果を確認するため、コンプライアンスの理解度テストを定期的実施する。
 - ⑤ 幹部育成研修の一環として、ガバナンス・コンプライアンス教育を定期的実施する。

- 3) 取締役会のあり方の見直し
 - a. 当社の取締役会のあり方を見直すため、
 - ① 社外取締役を過半数とした構成とし、社外取締役による取締役会の監督機能の実効性を確保する。
 - ② 取締役規程における付議、報告事項をコンプライアンスを重視し、見直しを行う。
 - ③ 取締役会の下位の業務執行機関である経営会議に、管理系の執行役員を参加させ、取締役会への議案、報告の適法性と妥当性のチェック、社内と社外取締役の情報の非対称の解消に努める。
 - b. グループ子会社の取締役会のあり方を見直すため、
 - ① 当社からグループ子会社への派遣取締役・監査役には、管理系の執行業務兼任者を派遣する。
 - ② グループ子会社取締役会の議案、報告の適法性と妥当性の監督機能向上を図る。
- 4) コンプライアンス体制の強化
 - ① 業務執行部門の支援に加え、牽制機能としての経理・財務・法務等の管理部門の充実化を図る。
 - ② 内部監査室の体制及び権限強化を図る。
 - ③ 内部監査室から代表取締役のみならず社外取締役や監査役会へのダブルレポートラインを実施する。
 - ④ コンプライアンス委員会のPDCAの適正化と、実効性向上の為に法務部、内部監査室等の構成員、及び取締役会、監査役会へのレポートラインの見直しを行う。
- 5) グループ全体のガバナンスシステムの構築
 - ① 外部コンサルタント起用による、第一カッターの内部監査規程・要綱の見直しを行う。
 - ② 外部コンサルタント起用による、グループ子会社の現行業務フロー評価及び管理規程のチェックと見直しを行う。

- ③ 子会社マネジメントに関するグループ全体のプラットフォームを整備する。
 - 1. グループ会社統括業務を管理本部長が行う。
 - 2. 親会社内部監査室による適法性の監査の充実を図る。
 - 3. 親会社からの派遣取締役・監査役による適法性と妥当性の監督の充実を図る。
 - 4. 親会社監査役、内部監査室、派遣取締役、派遣監査役によるオンライン等で、監査の共有や教育に関して情報交換会を実施し、グループ全体で、重層的に、不正の見落としの防止を行う。
 - 5. グループ全体の監査・監督に係る役職員の力量を担保する為、ガバナンス・コンプライアンスに関する最新情報の入手の為の講習会等受講の統制を、管理本部長が行う。

6)内部通報制度の充実化

- ① 内部通報制度を社内、社外の2系統とし、社外の通報窓口(法律事務所等)を新設する。
- ② 現在の目安箱制度を内部通報制度として制度化し、現在の内部通報窓口と統合して従業員の利用しやすさを改善する。また、グループ全体へ、定期的に、制度の周知徹底を行う。
- ③ 従業員の利便性改善、確かなフィードバック、確実に通報を管理できるよう、管理本部において調査体制を改善する。
- ④ 役員の法令等違反に関する専用通報窓口の創設を図る。
- ⑤ 通報者保護の為、グループ全体へ、定期的に、公益通報者保護制度の周知徹底を行う。

7)グループ全体の内部監査、監査役監査、監査人による会計監査の連携強化及び実効性確保

- ① 内部監査室は執行だけでなく監査役にも報告を行うダブルレポートラインを実施する。
- ② 親会社の内部監査室は、グループ会社の派遣取締役や派遣監査役とも連携して監査計画を策定する。

- ③ 会計監査人は、特定監査役以外の監査役や内部監査室長にも、メーリングリスト等を利用して、特定監査役と同様の情報が共有できるよう連携する。
- 8) コンプライアンス重視の人事
- ① 人事考課にあたっては、法令遵守の意識、社内規程の習熟度、コンプライアンスに対するコミットメントや理解度テスト結果等を重要な評価項目とする。
- ② 役員の選定においては、候補者のコンプライアンス意識を確認する場として、指名・報酬諮問委員会がインタビューし取締役会が最終的に判断できるシステムを構築する。
- 9) 社内コミュニケーションの改善
- ① 情報統制は必要最低限として、可能な限りの情報公開と新しい情報共有の手段を実現していく。
- ② チームビルディングによって、対話・よく聞く文化・心理的安全性（議論できる）を高めていくために、ワークショップの手法をグループ全体に展開していく。

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

① 訴訟提起

当社は2023年4月12日、下記の内容の損害賠償を請求する訴訟を横浜地方裁判所に提起しました。

当社は2021年10月8日付「第三者委員会の調査結果報告書の受領に関するお知らせ」を踏まえ、当社役員1名及び元役員2名並びに当社連結子会社(2023年6月30日時点)元役員2名に任務懈怠責任、不法行為責任及び債務不履行責任等が認められると判断し、連帯して特別調査費用等に係る1億7,871万3,959円及びこれに対応する遅延損害金の賠償を求め本訴の提起にいたしました。

②訴訟提起

当社連結子会社(2023年6月30日時点)であった株式会社光明工事は下記の内容の損害賠償を請求する訴訟を横浜地方裁判所に提起しております。

株式会社光明工事は2021年10月8日付「第三者委員会の調査結果報告書の受領に関するお知らせ」を踏まえ、株式会社光明工事の元役員1名に任務懈怠責任、不法行為責任及び不当利得等が認められると判断し、不正な資金流出による損害乃至不当利得返還請求として1億7,148万1,617円及びこれに対応する遅延損害金の支払いを求め、本訴の提起にいたしました。

③吸収合併

当社は、2023年5月15日開催の取締役会において、当社連結子会社である株式会社光明工事を吸収合併することを決議し、同年7月1日付で同合併の効力が発生いたしました。

2. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の氏名等 (2023年6月30日現在)

地 位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	高 橋 正 光	
取 締 役	安 達 昌 史	管理本部長
取 締 役	原 田 英 治	英治出版(株) 代表取締役 学校法人軽井沢風越学園 評議員 公益財団法人かめのり財団 理事
取 締 役	松 田 文 子	聖和看護専門学校 非常勤講師 (公財)大原記念労働科学研究所 特別研究員 一般社団法人日本人間工学会 理事 千葉工業大学 非常勤講師
取 締 役	行 方 一 正	(公財)大原記念労働科学研究所 総務部部长 (株)モバイルファクトリー 社外監査役 (株)ピーストラベルプロジェクト 代表取締役 公益財団法人民際センター 評議員
常 勤 監 査 役	安 東 敏 明	
監 査 役	友 成 亮 太	丸の内中央法律事務所 弁護士 ㈱電波新聞社 監査役
監 査 役	横 山 正 宏	横山正宏公認会計士事務所 代表

- (注) 1. 取締役のうち、原田英治氏、松田文子氏及び行方一正氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役のうち、安東敏明氏、友成亮太氏及び横山正宏氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 社外監査役横山正宏氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
4. 取締役のうち、原田英治氏、松田文子氏及び行方一正氏は、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。
5. 監査役のうち、安東敏明氏、友成亮太氏及び横山正宏氏は、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

(2) 責任限定契約の内容の概要

当社は、社外取締役原田英治氏、松田文子氏、行方一正氏及び社外監査役安東敏明氏、友成亮太氏、横山正宏氏との間で、会社法第423条第1項に定める損害賠償責任について、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度とする契約を締結しております。

(3) 補償契約の内容の概要

該当事項はありません。

(4) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が役員等としての地位に基づく善管注意義務違反行為等を起因とする損害賠償請求を受けた場合、被保険者が負担することとなる争訟費用及び損害賠償金等による損害を当該保険契約により填補することとしております。ただし、利益又は便宜の供与を違法に得た場合や背信行為、犯罪行為もしくは詐欺行為を行った場合等は填補の対象外となっております。

当該役員等賠償責任保険契約の被保険者は当社及び連結子会社の取締役、監査役並びに執行役員等であり、全ての被保険者について、その保険料を全額当社が負担しております。

(5) 取締役及び監査役の報酬額の総額等

①取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

当社は、2008年3月1日開催の取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針となる内規を制定し、2022年9月28日開催の取締役会において、株式報酬制度の内容に係る決定方針となる内規を制定いたしました。

また、取締役会は、当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等について、報酬等の内容の決定方法及び決定された報酬等の内容が当該決定方針と整合していることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

取締役の報酬の算定において、業績連動報酬は採用しておりませんが、内規に基づいて、役位、業績及び従業員との賞与水準等を考慮しております。

社外取締役及び監査役の報酬は、業務執行から独立した立場であることから、固定の基本報酬のみとしております。

なお、当社は退職慰労金制度を廃止し、退職慰労金を打切り支給することにしておりますが、支給時期は各役員の退任時としております。

②取締役及び監査役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

取締役の報酬は、2001年9月26日開催の第34回定時株主総会において年額2億円以内と決議しております(使用人分給与は含みません。)。当該定時株主総会終結時点の取締役員数は6名です(うち、社外取締役は0名)。監査役の報酬は、2016年9月27日開催の第49回定時株主総会において年額5千万円以内と限度額を決定しております。当該定時株主総会終結時点の監査役の員数は3名です。

また、2022年9月28日開催の第55回定時株主総会において、譲渡制限付株式の付与のための報酬として、取締役(社外取締役を除く。)に対して年間3万株以内、年額3千万円以内の範囲において当社の普通株式を発行又は処分できる旨を決議しております。当該定時株主総会終結時点の取締役(社外取締役を除く。)の員数は2名です。

当事業年度における当社の各取締役の報酬等の額は、2022年9月28日開催の第55回定時株主総会後の取締役会で、限度額の範囲内において、上記方針に従い決定しております。なお、指名・報酬諮問委員会が設置された2021年5月21日以降の取締役への報酬決議は、当委員会の審議を経た上で決定しております。また、各監査役の報酬等の額は、限度額の範囲内において、監査役の協議により決定しております。

なお、役員の退職慰労金については、2022年9月28日開催の第55回定時株主総会において、就任時から同総会終結の時までの在任期間を対象とし、当社所定の基準に従い相当額の範囲内において各役員の退任時に打切り支給する旨を決議しております。当該打切り支給の対象となる取締役の員数は5名（うち社外取締役は3名）、監査役の員数は2名です。

③役員区分ごとの報酬額の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	株式報酬	退職慰労金	
取締役 (うち社外取 締役)	64,395 (12,667)	58,279 (12,150)	4,350 (—)	1,765 (517)	5 (3)
監査役 (うち社外監 査役)	17,109 (14,494)	16,785 (14,370)	—	324 (124)	4 (3)

- (注) 1. 期末日現在の人員数は、取締役5名、監査役3名であります。監査役の支給人員数と期末人員数が相違しているのは、支給人員数に中に退任した監査役1名が含まれているためであります。
2. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
3. 当社の役員報酬は固定報酬及び株式報酬となり、業績連動報酬はございません。
4. 上記の支給額には、当事業年度における役員退職慰労引当金の増加額2,090千円（取締役5名分1,765千円、監査役3名分324千円）が含まれております。
5. 上記のほか、2022年9月28日開催の株主総会に基づき、役員退職慰労金を退任監査役2名に対し4,692千円（うち社外監査役1名に対し4,292千円）支給しております。なお、この金額には過年度の事業報告において役員の報酬等の総額に含めた役員退職慰労引当金の繰入額4,493千円が含まれております。
6. 上記株式報酬は、譲渡制限付株式報酬として当事業年度に費用計上した額であります。

(6) 社外役員に関する事項

	社外取締役	社外取締役	社外取締役	社外監査役	社外監査役	社外監査役
	原田 英治	松田 文子	行方 一正	安東 敏明	友成 亮太	横山 正宏
①他の法人等の業務執行者の事実及び当社と他の法人等との関係	(別記1)	(別記2)	(別記3)	—	(別記4)	(別記5)
②他の法人等の社外役員等の兼務の事実及び当社と他の法人等との関係	—	—	(別記6)	—	(別記7)	—
③当社・特定関係事業者の業務執行者又は役員(業務執行者であるものを除く。)の三親等内の親族等であると知っている場合、その事実	—	—	—	—	—	—
④事業年度中の取締役会等での活動状況	(別記8)	(別記8)	(別記8)	(別記8)	(別記8)	(別記8)
⑤社外役員に対する報酬等の総額	(別記9)	(別記9)	(別記9)	(別記9)	(別記9)	(別記9)
⑥当社の子会社からの役員としての報酬等の額	—	—	—	—	—	—
⑦上記①～⑥の内容に対しての社外役員の意見があるとき、その意見	—	—	—	—	—	—
⑧社外役員が果たすことが期待される役割に関して行った職務の概要	(別記10)	(別記10)	(別記10)	—	—	—

(別記1) 社外取締役原田英治氏は、英治出版株式会社の代表取締役を兼ねております。なお、英治出版株式会社と当社との間には、重要な取引その他特別の関係はありません。

(別記2) 社外取締役松田文子氏は、(公財)大原記念労働科学研究所の総務部部長を兼ねております。なお、(公財)大原記念労働科学研究所と当社との間には、重要な取引その他特別の関係はありません。

(別記3) 社外取締役行方一正氏は、株式会社ピーストラベルプロジェクトの代表取締役を兼ねております。なお、株式会社ピーストラベルプロジェクトと当社との間には、重要な取引その他特別の関係はありません。

(別記4) 社外監査役友成亮太氏は、丸の内中央法律事務所の弁護士を兼ねております。なお、丸の内中央法律事務所と当社との間には、重要な取引その他特別の関係はありません。

(別記5) 社外監査役横山正宏氏は、横山正宏公認会計士事務所の代表を兼ねております。なお、横山正宏公認会計士事務所と当社との間には、重要な取引その他特別の関係はありません。

(別記6) 社外取締役行方一正氏は、株式会社モバイルファクトリーの監査役を兼ねております。なお、株式会社モバイルファクトリーと当社との間には、重要な取引その他特別の関係はありません。

(別記7) 社外監査役友成亮太氏は、株式会社電波新聞社の監査役を兼ねております。なお、株式会社電波新聞社と当社との間には、重要な取引その他特別の関係はありません。

(別記8) 事業年度中の取締役会等での活動状況

社外取締役 原田英治

当事業年度開催の取締役会14回及び指名・報酬委員会6回の全てに出席し、経営者としての豊富な知識・経験に基づく発言を行っております。

社外取締役 松田文子

当事業年度開催の取締役会14回及び指名・報酬委員会6回の全てに出席し、労働科学分野の専門家としての豊富な知識・経験に基づく発言を行っております。

社外取締役 行方一正

当事業年度開催の取締役会14回及び指名・報酬委員会6回の全てに出席し、経営者としての豊富な知識・経験に基づく発言を行っております。

社外監査役 安東敏明

昨年就任後の取締役会11回及び監査役会11回の全てに出席し、監査方針及び監査計画の確認や監査役規程の改訂等につきまして、監査役としての豊富な知見・経験に基づく発言を行っております。

社外監査役 友成亮太

当事業年度開催の取締役会14回及び監査役会15回の全てに出席し、監査方針及び監査計画の確認や監査役規程の改訂等につきまして、弁護士としての客観的視点に基づく発言を行っております。

社外監査役 横山正宏

当事業年度開催の取締役会14回及び監査役会15回の全てに出席し、監査方針及び監査計画の確認や監査役規程の改訂等につきまして、公認会計士としての知識・経験に基づく発言を行っております。

(別記9) 社外役員に対する報酬等の総額

社外取締役3名： 12,667千円

社外監査役3名： 14,494千円

(別記10) 社外役員が果たすことが期待される役割に関して行った職務の概要

社外取締役 原田英治

経営者としての豊富な経験と幅広い見識を有しており、当社の経営を客観的な視点で監督していただくとともに、経営全般に助言をいただくことにより、コーポレート・ガバナンス体制強化に寄与していただいております。また、指名・報酬委員会では、取締役への報酬決議を当委員会の委員として、審議を行っていただいております。

社外取締役 松田文子

労働科学分野の専門家として幅広い知識と豊富な経験を有しており、主として労働安全衛生に係る助言をいただくことにより、引き続き当社の経営を適切に監督していただいております。また、指名・報酬委員会では、取締役への報酬決議を当委員会の委員として、審議を行っていただいております。

社外取締役 行方一正

経営者としての豊富な経験及び実績を有しており、当社の経営を客観的な視点で監督していただくとともに、経営全般に助言をいただくことにより、コーポレート・ガバナンス体制強化に寄与していただいております。また、指名・報酬委員会では、取締役への報酬決議を当委員会の委員として、審議を行っていただいております。

3. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称

太陽有限責任監査法人

(2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

	支払額
当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額	41,445千円
当社及び当社子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	67,345千円

(注) 1. 当社と会計監査人の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の報酬の額を区分しておりませんので、上記の金額には金融商品取引法に基づく監査の報酬等を含めております。

2. 監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画、監査の実施状況、及び報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて、必要な検討を行った上で、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

(3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

(4) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、監査役会の決議をもって、会計監査人の解任又は不再任を株主総会の会議の目的とすることといたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合、監査役会が監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨及び解任の理由を報告いたします。

(5) 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

(6) 補償契約の内容の概要

該当事項はありません。

4. 株式に関する事項

- (1) 事業年度末日において発行済株式（自己株式を除く）の総数に対するその株式の数の割合が高いことにおいて上位となる10名の株主の氏名又は名称及び当該株主の有する株式の数並びに当該株主の有する株式に係る当該割合

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
渡 邊 隆	1,640,000株	14.28%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	957,600株	8.34%
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	928,000株	8.08%
ダイヤモンド機工株式会社	840,000株	7.31%
旭ダイヤモンド工業株式会社	600,000株	5.22%
第一カッター興業従業員持株会	402,100株	3.50%
富国生命保険相互会社	400,000株	3.48%
MSIP CLIENT SECURITIES	291,500株	2.54%
KIA FUND 136	272,200株	2.37%
永 野 謙 一	270,934株	2.36%

(注) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

(2) その他株式に関する事項

- ①発行可能株式総数 40,000,000株
- ②発行済株式総数 12,000,000株（うち自己株式 516,307株）
- ③株主数 2,227名（うち単元未満株主数 255名）

(3) 当事業年度中に職務執行の対価として当社役員に対し交付した株式の状況

区分	株式数	交付対象者数
取締役（社外取締役を除く。）	4,629株	2名
社外取締役	—	—
監査役	—	—

(注) 当該事業年度中に交付した株式の内容は、一定の譲渡制限期間及び当社による無償取得事由等の定めに服する当社普通株式（譲渡制限付株式）であります。

5. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

~~~~~  
本事業報告の記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連結貸借対照表

(2023年6月30日現在)

| 資 産 の 部       |                     | 負 債 の 部              |                     |
|---------------|---------------------|----------------------|---------------------|
| 科 目           | 金 額                 | 科 目                  | 金 額                 |
|               | 千円                  |                      | 千円                  |
| <b>【流動資産】</b> | <b>【14,274,538】</b> | <b>【流動負債】</b>        | <b>【3,230,084】</b>  |
| 現金及び預金        | 9,442,093           | 工事未払金                | 1,048,992           |
| 受取手形・完成工事未収入金 | 4,434,522           | 買掛金                  | 84,639              |
| 売掛金           | 94,400              | 1年内返済予定の長期借入金        | 59,538              |
| 未成工事支出金       | 1,116               | リース債務                | 33,381              |
| 商 品           | 39,580              | 未払法人税等               | 580,025             |
| 材料貯蔵品         | 134,872             | 賞与引当金                | 76,311              |
| その他           | 135,274             | その他                  | 1,347,195           |
| 貸倒引当金         | △7,321              |                      |                     |
| <b>【固定資産】</b> | <b>【7,291,321】</b>  | <b>【固定負債】</b>        | <b>【1,101,934】</b>  |
| (有形固定資産)      | (5,917,539)         | 長期借入金                | 300,340             |
| 建物及び構築物       | 2,222,921           | リース債務                | 74,209              |
| 機械装置及び運搬具     | 940,114             | 役員退職慰労引当金            | 247,335             |
| 工具、器具及び備品     | 42,145              | 退職給付に係る負債            | 408,600             |
| 土地            | 2,488,735           | その他                  | 71,448              |
| リース資産         | 106,802             |                      |                     |
| 建設仮勘定         | 116,820             |                      |                     |
| (無形固定資産)      | (293,828)           | <b>負債合計</b>          | <b>4,332,018</b>    |
| のれん           | 224,817             |                      |                     |
| その他           | 69,010              | <b>純資産の部</b>         |                     |
| (投資その他の資産)    | (1,079,953)         | <b>【株主資本】</b>        | <b>【16,625,078】</b> |
| 投資有価証券        | 614,782             | 資本金                  | 470,300             |
| 繰延税金資産        | 219,204             | 資本剰余金                | 477,722             |
| 長期未収入金        | 172,760             | 利益剰余金                | 15,896,934          |
| その他           | 249,292             | 自己株式                 | △219,878            |
| 貸倒引当金         | △176,086            | <b>【その他の包括利益累計額】</b> | <b>【△6,071】</b>     |
|               |                     | その他有価証券評価差額金         | 9,687               |
|               |                     | 退職給付に係る調整累計額         | △15,759             |
|               |                     | <b>【非支配株主持分】</b>     | <b>【614,833】</b>    |
|               |                     |                      |                     |
|               |                     | <b>純資産合計</b>         | <b>17,233,841</b>   |
| <b>資産合計</b>   | <b>21,565,860</b>   | <b>負債純資産合計</b>       | <b>21,565,860</b>   |

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

# 連結損益計算書

(2022年7月1日から2023年6月30日まで)

| 科 目             | 金 額        | 千円         |
|-----------------|------------|------------|
| 売上高             |            | 千円         |
| 売上高             | 20,028,484 |            |
| 売上原価            | 2,135,909  | 22,164,394 |
| 売上総利益           | 13,677,104 |            |
| 売上総利益           | 1,436,351  | 15,113,456 |
| 販売費及び一般管理費      | 6,351,380  |            |
|                 | 699,557    | 7,050,938  |
| 営業利益            |            | 4,419,920  |
| 営業外収益           |            | 2,631,017  |
| 受取利息            | 50         |            |
| 受取配当金           | 10,057     |            |
| 受取保険金           | 20,590     |            |
| 持分法による投資利益      | 77,056     |            |
| 匿名組合投資利益        | 111,280    |            |
| 雑収入             | 30,537     | 249,573    |
| 営業外費用           |            |            |
| 支払替利差損          | 1,630      |            |
| 為上債権売却損         | 2,274      |            |
| 不動産賃貸却原価費       | 18         |            |
| 支払資産補償          | 3,256      |            |
| 雑損              | 4,401      |            |
|                 | 3,874      | 15,456     |
| 経常利益            |            | 2,865,135  |
| 特別利益            |            |            |
| 固定資産売却益         | 26,606     |            |
| 保険解約返戻金         | 13,806     |            |
| 貸倒引当金戻入         | 30,000     |            |
| 受取損害賠償金         | 70,000     | 140,412    |
| 特別損失            |            |            |
| 固定資産売却損         | 181        |            |
| 固定資産除却損         | 9,091      | 9,272      |
| 税金等調整前当期純利益     |            | 2,996,275  |
| 法人税、住民税及び事業税    | 960,827    |            |
| 法人税等調整額         | △16,695    | 944,131    |
| 当期純利益           |            | 2,052,143  |
| 非支配株主に帰属する当期純利益 |            | 105,279    |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 |            | 1,946,864  |

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連結株主資本等変動計算書

(2022年7月1日から2023年6月30日まで)

|                         | 株 主 資 本 |         |            |          |            |
|-------------------------|---------|---------|------------|----------|------------|
|                         | 資 本 金   | 資本剰余金   | 利益剰余金      | 自 己 株 式  | 株主資本合計     |
|                         | 千円      | 千円      | 千円         | 千円       | 千円         |
| 当 期 首 残 高               | 470,300 | 462,044 | 14,271,484 | △158,721 | 15,045,106 |
| 当 期 変 動 額               |         |         |            |          |            |
| 剰余金の配当                  |         |         | △321,413   |          | △321,413   |
| 親会社株主に帰属<br>する当期純利益     |         |         | 1,946,864  |          | 1,946,864  |
| 自己株式の処分                 |         | 4,877   |            | 922      | 5,800      |
| 連結子会社株式取得による持分の増減       |         | 10,800  |            |          | 10,800     |
| 持分法適用会社の保有する親会社株式の変動    |         |         |            | △62,079  | △62,079    |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） |         |         |            |          |            |
| 当 期 変 動 額 合 計           | －       | 15,678  | 1,625,450  | △61,157  | 1,579,971  |
| 当 期 末 残 高               | 470,300 | 477,722 | 15,896,934 | △219,878 | 16,625,078 |

|                      | その他の包括利益累計額  |              |               | 非支配株主持分  | 純 資 産 合 計  |
|----------------------|--------------|--------------|---------------|----------|------------|
|                      | その他有価証券評価差額金 | 退職給付に係る調整累計額 | その他の包括利益累計額合計 |          |            |
|                      | 千円           | 千円           | 千円            | 千円       | 千円         |
| 当 期 首 残 高            | △8,489       | △13,788      | △22,277       | 831,370  | 15,854,200 |
| 当 期 変 動 額            |              |              |               |          |            |
| 剰余金の配当               |              |              |               |          | △321,413   |
| 親会社株主に帰属する当期純利益      |              |              |               |          | 1,946,864  |
| 自己株式の処分              |              |              |               |          | 5,800      |
| 連結子会社株式取得による持分の増減    |              |              |               |          | 10,800     |
| 持分法適用会社の保有する親会社株式の変動 |              |              |               |          | △62,079    |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額）  | 18,176       | △1,970       | 16,206        | △216,536 | △200,330   |
| 当 期 変 動 額 合 計        | 18,176       | △1,970       | 16,206        | △216,536 | 1,379,640  |
| 当 期 末 残 高            | 9,687        | △15,759      | △6,071        | 614,833  | 17,233,841 |

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

# 貸借対照表

(2023年6月30日現在)

| 資 産 の 部       |                    | 負 債 の 部           |                     |
|---------------|--------------------|-------------------|---------------------|
| 科 目           | 金 額                | 科 目               | 金 額                 |
|               | 千円                 |                   | 千円                  |
| <b>【流動資産】</b> | <b>【9,258,078】</b> | <b>【流動負債】</b>     | <b>【2,151,941】</b>  |
| 現金及び預金        | 5,683,688          | 工事未払金             | 723,662             |
| 受取手形          | 324,444            | 未払金               | 271,861             |
| 完成工事未収入金      | 3,092,894          | 未払費用              | 256,525             |
| 材料貯蔵品         | 86,736             | 未払法人税等            | 326,234             |
| 前払費用          | 54,730             | 未払消費税等            | 166,856             |
| その他           | 16,686             | 預り金               | 182,463             |
| 貸倒引当金         | △1,103             | 賞与引当金             | 62,501              |
|               |                    | その他               | 161,836             |
| <b>【固定資産】</b> | <b>【6,914,757】</b> | <b>【固定負債】</b>     | <b>【359,936】</b>    |
| (有形固定資産)      | (4,733,639)        | 退職給付引当金           | 323,244             |
| 建物            | 1,459,120          | 長期未払金             | 36,692              |
| 構築物           | 429,732            |                   |                     |
| 機械及び装置        | 495,980            |                   |                     |
| 車両運搬具         | 228,370            |                   |                     |
| 工具、器具及び備品     | 25,835             |                   |                     |
| 土地            | 2,094,600          |                   |                     |
| (無形固定資産)      | (64,631)           |                   |                     |
| ソフトウェア        | 46,833             |                   |                     |
| 電話加入権         | 3,752              |                   |                     |
| その他           | 14,045             |                   |                     |
| (投資その他の資産)    | (2,116,486)        |                   |                     |
| 投資有価証券        | 188,194            |                   |                     |
| 関係会社株式        | 1,555,491          |                   |                     |
| 出資            | 590                |                   |                     |
| 破産更生債権等       | 583                |                   |                     |
| 長期前払費用        | 893                |                   |                     |
| 繰延税金資産        | 192,056            |                   |                     |
| 保険積立金         | 165,211            |                   |                     |
| その他           | 14,048             |                   |                     |
| 貸倒引当金         | △583               |                   |                     |
|               |                    | <b>負債合計</b>       | <b>2,511,877</b>    |
|               |                    | <b>純資産の部</b>      |                     |
|               |                    | <b>【株主資本】</b>     | <b>【13,653,727】</b> |
|               |                    | (資本金)             | (470,300)           |
|               |                    | (資本剰余金)           | (469,977)           |
|               |                    | 資本準備金             | 465,100             |
|               |                    | その他資本剰余金          | 4,877               |
|               |                    | (利益剰余金)           | (12,816,303)        |
|               |                    | 利益準備金             | 25,000              |
|               |                    | その他利益剰余金          | 12,791,303          |
|               |                    | 別途積立金             | 3,990,000           |
|               |                    | 繰越利益剰余金           | 8,801,303           |
|               |                    | (自己株式)            | (△102,853)          |
|               |                    | <b>【評価・換算差額等】</b> | <b>【7,230】</b>      |
|               |                    | (その他有価証券評価差額金)    | (7,230)             |
|               |                    | <b>純資産合計</b>      | <b>13,660,957</b>   |
| <b>資産合計</b>   | <b>16,172,835</b>  | <b>負債純資産合計</b>    | <b>16,172,835</b>   |

(注)記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

# 損 益 計 算 書

(2022年7月1日から2023年6月30日まで)

| 科 目                    | 金 額     | 千円               |
|------------------------|---------|------------------|
| 完 成 工 事 高              |         | 14,796,230       |
| 完 成 工 事 原 価            |         | 10,130,903       |
| 完 成 工 事 総 利 益          |         | 4,665,326        |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費    |         | 3,018,896        |
| <b>営 業 利 益</b>         |         | <b>1,646,430</b> |
| 営 業 外 収 益              |         |                  |
| 受 取 利 息                | 14      |                  |
| 受 取 配 当 金              | 134,054 |                  |
| 受 取 保 険 金              | 16,369  |                  |
| 受 取 家 賃                | 8,127   |                  |
| 雑 収 入                  | 15,335  | 173,901          |
| 営 業 外 費 用              |         |                  |
| 不 動 産 賃 貸 原 価          | 4,713   |                  |
| 支 払 補 償 費              | 4,401   |                  |
| 雑 損 失                  | 390     | 9,504            |
| <b>経 常 利 益</b>         |         | <b>1,810,827</b> |
| 特 別 利 益                |         |                  |
| 固 定 資 産 売 却 益          | 25,144  |                  |
| 保 険 解 約 返 戻 金          | 12,005  |                  |
| 受 取 損 害 賠 償 金          | 70,000  | 107,150          |
| 特 別 損 失                |         |                  |
| 固 定 資 産 売 却 損          | 181     |                  |
| 固 定 資 産 除 却 損          | 4,338   | 4,520            |
| <b>税 引 前 当 期 純 利 益</b> |         | <b>1,913,457</b> |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税  | 517,918 |                  |
| 法 人 税 等 調 整 額          | △17,883 | 500,034          |
| <b>当 期 純 利 益</b>       |         | <b>1,413,422</b> |

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(2022年7月1日から2023年6月30日まで)

|                         | 株 主 資 本 |         |          |         |           |           |           |            |
|-------------------------|---------|---------|----------|---------|-----------|-----------|-----------|------------|
|                         | 資本金     | 資本剰余金   |          |         | 利 益 剰 余 金 |           |           |            |
|                         |         | 資本準備金   | その他資本剰余金 | 資本剰余金合計 | 利益準備金     | その他利益剰余金  |           | 利益剰余金合計    |
|                         | 千円      | 千円      | 千円       | 千円      | 千円        | 千円        | 千円        | 千円         |
| 当期首残高                   | 470,300 | 465,100 | —        | 465,100 | 25,000    | 3,890,000 | 7,809,294 | 11,724,294 |
| 当期変動額                   |         |         |          |         |           |           |           |            |
| 剰余金の配当                  |         |         |          |         |           |           | △321,413  | △321,413   |
| 当期純利益                   |         |         |          |         |           |           | 1,413,422 | 1,413,422  |
| 別途積立金の積立                |         |         |          |         |           | 100,000   | △100,000  | —          |
| 自己株式の処分                 |         |         | 4,877    | 4,877   |           |           |           | —          |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) |         |         |          |         |           |           |           |            |
| 当期変動額合計                 | —       | —       | 4,877    | 4,877   | —         | 100,000   | 992,008   | 1,092,008  |
| 当期末残高                   | 470,300 | 465,100 | 4,877    | 469,977 | 25,000    | 3,990,000 | 8,801,303 | 12,816,303 |

|                         | 株主資本     |            | 評価・換算差額等         |                | 純資産合計      |
|-------------------------|----------|------------|------------------|----------------|------------|
|                         | 自己株式     | 株主資本<br>合計 | その他有価証券<br>評価差額金 | 評価・換算<br>差額等合計 |            |
|                         | 千円       | 千円         | 千円               | 千円             | 千円         |
| 当期首残高                   | △103,775 | 12,555,918 | △10,425          | △10,425        | 12,545,493 |
| 当期変動額                   |          |            |                  |                |            |
| 剰余金の配当                  |          | △321,413   |                  |                | △321,413   |
| 当期純利益                   |          | 1,413,422  |                  |                | 1,413,422  |
| 別途積立金の積立                |          | —          |                  |                | —          |
| 自己株式の処分                 | 922      | 5,800      |                  |                | 5,800      |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) |          |            | 17,655           | 17,655         | 17,655     |
| 当期変動額合計                 | 922      | 1,097,808  | 17,655           | 17,655         | 1,115,464  |
| 当期末残高                   | △102,853 | 13,653,727 | 7,230            | 7,230          | 13,660,957 |

(注) 記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

## 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書

### 独立監査人の監査報告書

2023年 8 月 28 日

第一カッター興業株式会社  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 本 間 洋 一 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 堤 康 印

#### 監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、第一カッター興業株式会社の2022年7月1日から2023年6月30日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、第一カッター興業株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結計算書類に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

独立監査人の監査報告書

2023年8月28日

第一カッター興業株式会社  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 本 間 洋 一 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 堤 康 印  
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、第一カッター興業株式会社の2022年7月1日から2023年6月30日までの第56期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会監査報告書

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、2022年7月1日から2023年6月30日までの第56期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
  - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
  - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（2005年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人太陽有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人太陽有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2023年8月30日

第一カッター興業株式会社 監査役会

|              |         |   |
|--------------|---------|---|
| 常勤監査役（社外監査役） | 安 東 敏 明 | ㊟ |
| 社外監査役        | 友 成 亮 太 | ㊟ |
| 社外監査役        | 横 山 正 宏 | ㊟ |

以 上

## 株主総会参考書類

### 議案及び参考事項

#### 議 案 剰余金の処分の件

当期の期末配当につきましては、経営体質の強化と今後の事業展開に備えるため内部留保に努めるとともに、安定配当の継続を考慮した上で、配当を実施することを基本方針としております。

当期の期末配当は、次のとおりといたしたいと存じます。

#### 1. 剰余金の処分に関する事項

(1) 増加する剰余金の項目及びその額

別途積立金 100,000,000 円

(2) 減少する剰余金の項目及びその額

繰越利益剰余金 100,000,000 円

#### 2. 期末配当に関する事項

(1) 配当財産の種類

金銭

(2) 株主に対する配当財産の割当に関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき金35円 総額 401,929,255 円

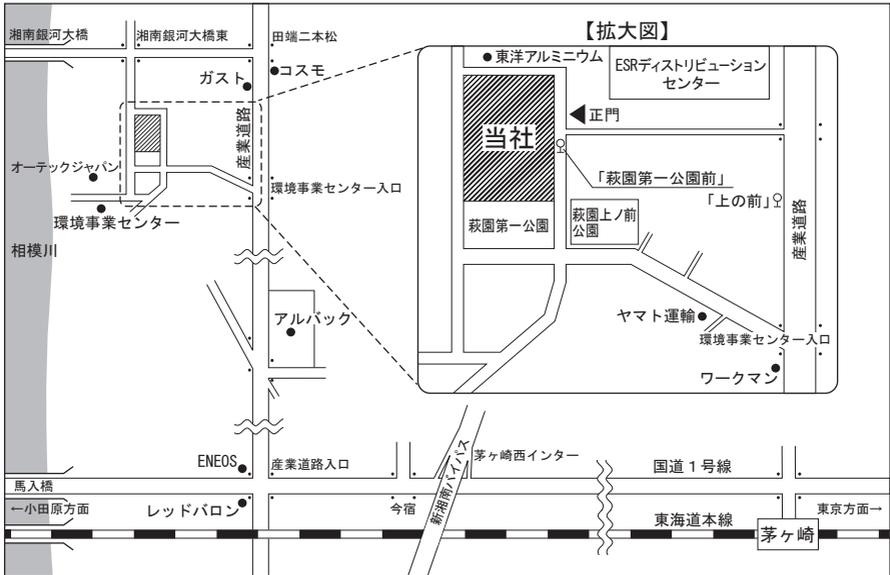
(3) 剰余金の配当が効力を生じる日

2023年9月28日

以 上

# 株主総会会場ご案内図

会場 神奈川県茅ヶ崎市萩園833番地  
第一カッター興業株式会社  
本社ビル3階 大会議室



## 電車ご利用の方

- ① J R 茅ヶ崎駅下車→(北口) バス  
茅53系統 下河原経由寒川駅南口行  
「萩園第一公園前」下車(所要時間約20分) →徒歩1分
- ② J R 茅ヶ崎駅下車→(北口) バス  
茅54系統 山伏塚経由寒川駅南口行  
「上の前」下車(所要時間約20分) →徒歩5分